

2. 情報バリアフリー・情報支援の大切さ

推進会議には、さまざまな障害のある人がいます。

会議をきちんと理解して、自分の考えていることをしっかりと発言するために、いろいろな支援があります。

たとえば、知的障害のある人には、支援者がついています。会議の資料には、ふり仮名がつけられています。また会議の中で、難しい言葉が使われたり、今、何が起きているのか分からないときには、「イエローカード」(下の写真と、裏表紙を見てください)を使って、議長に伝えることができます。耳が聞こえなくて、話されていることが分からない人のためには、パソコンを使って、何が話されているかを字幕にする人(筆記者)がっています。

目が見えなくて、耳が聞こえない盲ろう者には、指に点字を打つ通訳者がっています。また、手話通訳者がいます。手話通訳者は、手話ができる人と、手話ができない人がお互いに理解することを手助けしてくれる人です。

こうした、いろいろな障害に応じた対応(「合理的配慮」といいます)は、全員が会議にきちんと参加するためには欠かせません。

推進会議の様子は内閣府のホームページ(注)の動画でも見られるようになっています。動画にも字幕と手話があります。是非、ご覧ください。

※パソコンを持っていない、使うことが難しい人は、住んでいる街の役所などに相談してみてください。



推進会議で土本秋夫構成員がイエローカードを出している様子

(注)

内閣府障害者施策ホームページ

<http://www8.cao.go.jp/shougai/index.html>